

# 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 清流の国ぎふ芸術祭開催事業費補助金（アート体験）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

環境生活部県民文化局文化創造課 文化創造係 電話番号：058-272-1111（内2465）

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 17,933 千円（前年度予算額：17,933 千円）

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	17,933	0	0	0	0	0	0	0	17,933
要求額	17,933	0	0	0	0	0	0	0	17,933
決定額	17,933	0	0	0	0	0	0	0	17,933

## 2 要求内容

### （1）要求の趣旨（現状と課題）

県民の美術に対する関心を高め、美術に関する知識や技術を向上させるために「アート体験プログラム」を創設し、年間を通じて、様々な体験プログラム等を実施する。（H30より毎年実施）

これまで、美術に親しむ県民の裾野の拡大や想像力、鑑賞力の向上の寄与を目的に、ぎふ美術展及び岐阜県青少年美術展を開催してきたが、開催場所である岐阜県美術館が遠方であることにより、飛騨・東濃・中濃地域からの青少年の来場が少ない。よって、岐阜県の文化の未来を担う青少年を対象に、鑑賞力の向上を図り、創作活動のきっかけ・励みとなるような機会を提供するアート体験プログラムを必要とする。ぎふ美術展、岐阜県青少年美術展、アート体験プログラムが三位一体となって取り組むことで、青少年へのさらなる美術への関心を高め、知識、技術の向上を目指す。

### （2）事業内容

一人でも多くの県民が、「アート」や「美術」を身近に感じ、親しみ、参加するきっかけとなるような岐阜県ならではの体験型プログラムを実施する。

### (3) 県負担・補助率の考え方

岐阜県の文化振興の主要プロジェクトである清流の国ぎふ芸術祭の柱の1つとして実施するものであり、全額県負担とする。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	158	職員旅費
需用費	30	文具等消耗品費
役務費	7	電話代
委託料	1,373	県主催プログラム委託料
補助金	16,365	(公財) 県教育文化財団補助
合計	17,933	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 事業主体及びその妥当性

県主催及び、本補助金を受けて、(公財)岐阜県教育文化財団が事業を実施する。

(公財)岐阜県教育文化財団は、人材の養成と県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継承を目的として活動している財団であり、事業主体として妥当である。

# 事業評価調査（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 文化芸術活動へ参加する県民の更なる増加、また、新たな文化の創造及び地域の伝統文化の継承により、自律的な文化活動を確立させる。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H29)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R6)	
					達成率	達成率
① 講座等参加率	0%	92%	100%	100%	100%	92%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	「アート体験プログラム-アートラボぎふ-」として、美術に対する関心を高めるため、また、美術に関する知識や技術を向上させる実技講座等を開催している。県内各地で、日本画や写真などの実技講座、美術史等のレクチャー等を行い、県民の方々の美術に関する関心や、見識を深められている。「様々な技能に驚き、刺激になった。」「今後絵を見る視点につながった。」などの意見をいただいている。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加  指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加  指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	例年多くの講座で定員を超過する応募があり、県内の文化振興につながるため、事業の必要性が高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	参加率も高く、美術に対する関心を高めること、美術に関する知識や技術を向上させることに資している。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	広報等も強化し、さらに多くの人にアートに関心を持ってもらえるように努めている。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 旧県展では、応募者の減少、観覧者の固定化が問題となっていたが、本事業の実施により、美術に親しむ層の裾野を拡大し、問題を解消していく。
--

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか。 本事業に対する県民のニーズのみならず、AAIC及びぎふ美術展についても更なる機運醸成を図り、県の文化、芸術振興のため、必要なプログラムを展開していく。
---